

(5) いろいろな楽器を鳴らしてみよう

※英／英語、伊／イタリア語、西／スペイン語、葡／ポルトガル語、越／ベトナム語

(ア) 幼児が親しみやすい打楽器

No	楽器イラスト	楽器の知識や奏法	どんな音色？
1	<p>カスタネット (castanet / 英)</p> 	<p>スペイン語で栗の意味の「カスターニャ」が語源。帆立の貝殻風の2枚の板を打ち合わせて音を鳴らす。フラメンコ等の民族舞踏や音楽に欠かせない楽器。幼稚園等で用いられるものはゴムで繋がっているため、口が開いたような状態となり打ちやすい。そのゴムに人差し指または中指を通し、もう片方の手で打って音を鳴らす。</p>	
2	<p>タンバリン／タンブリン (tambourine / 英)</p> 	<p>浅い胴にジングルという円盤状の金属が2枚1セットで5～10か所程取り付けられ、片面に皮が張られている。振ったり、指や拳、手のひら等で叩いたりして音を鳴らす。打面に対し指を垂直に当て、ふちを擦って音を鳴らすロール奏法もあり、松脂等を指につけると鳴りやすくなる。皮の張っていないものをモンキー・タンブリン等という。枠の穴に指を入れないよう気を付ける。</p>	
3	<p>トライアングル (triangle / 英)</p> 	<p>金属の棒を三角形に曲げられ、通常は一か所だけ繋がっていない。ビーターという金属の棒で叩いて音を鳴らす。叩けば音が鳴るため、簡単そうに見えるが、本体を握るクローズ(+), 放すオープン(O) というような奏法やトレモロ奏法、曲に合った音色で響かせる等、熟練の技も必要。</p> 	
4	<p>すず (bell / 英)</p>  <p>スレイ・ベル</p>	<p>幼稚園等で用いられるのは左側のようにプラスチックの楕円形のグリップにいくつかの鈴が付いているもの。取っ手の部分を握り、もう片方の手で手首をトントンと打って細かな音を鳴らしたり、左右に振って音を鳴らしたりする。右側のように棒にたくさんの鈴が付いているものは「スレイ・ベル」という。これが用いられている有名曲にはアンダーソンの「そりすべり」がある。</p>	
5	<p>ウッドブロック (wood block / 英)</p> 	<p>木を筒状にくり抜き、共鳴するようにしたもの。1音だけの箱状のものもある。柄の部分を持ち、もう片方の手に握ったスティックで打って音を鳴らす。左右で音程が違い、左に低い方、右に高い方になるように持つ。音色に影響のない部分にシールを貼ると子ども達も左右を間違えずに持つことができる。有名曲にはアンダーソンの「シンコペーテッド・クロック」がある。</p>	
6	<p>クラベス (claves / 西)</p> 	<p>ローズウッド等の硬い木が使われ、2本の棒状の木片を手で持って打ち合わせて音を鳴らす。空洞を作るようにして軽く握り、共鳴する場所で打つ。ライヒの「木片のための音楽」は音程の指定された5組のクラベス(またはウッドブロック)で演奏される。下の楽譜はサルサ等の基本となるクラベというリズム。</p> 	
7	<p>ギロ (guiro / 西)</p> 	<p>瓢箪の中をくり抜き、表面に入れられた刻みを細く短い棒で擦って音を鳴らす。短く擦ったり、長めに擦ったりしてリズムを刻む。ベトナムのカエル型のギロは、ゲロゲロとカエルの鳴き声に似たような音が鳴る。2つの穴は指を入れるところではない。</p>	

(ア) 幼児が親しみやすい打楽器

No	楽器イラスト	楽器の知識や奏法	どんな音色？
8	<p>大太鼓／バスドラム (bass drum / 英)</p> 	<p>直径 70 ～ 100 cm程の両面太鼓で、スタンドに載せたり、固定したりして使用する。筒状の胴の両面にヘッドと呼ばれる皮をリムという枠にネジで固定して張るが、その締め具合で音の高さが変わる。ヘッドは本革製とプラスチック製がある。直径が大きいため、響きのある低い音で鳴る。楽器の斜め後ろに立ち右側の面を叩いて音を鳴らす。先にフェルトなどが巻かれた撥で打ち、撥を持っていない方の手は打面に添えて響きを止めたりする。</p>	
9	<p>小太鼓／スネアドラム (snare drum / 英)</p> 	<p>サイド・ドラムとも呼ばれる両面太鼓で、裏面の中央にスネア（響き線、スナッピー）という金属線が張られており、叩くとザーツという響きをする。ストレーナーというレバーのON/OFFにより響きが変わる。ふつうは木製のスティック2本で打つ。ジャズではワイヤー・ブラシで擦るように演奏することもある。両手とも手の甲を上にするマッチドグリップと、利き手ではない方の手の平が斜め上を向くように持つトラディショナルグリップがある。ロールという高速で連打する奏法もある。</p>	
10	<p>シンバル (cymbal / 英)</p>  <p>合わせシンバル</p> <p>サスペンデッドシンバル</p>	<p>金属の円盤型の板を2枚1組で打ち合わせて音を鳴らすものを合わせシンバル、1枚を吊るしたりスタンドに固定したりしてマレットやスティックで叩いて鳴らすものをサスペンデッドシンバルという。元々はオスマン・トルコの軍楽隊の楽器。合わせシンバルは、人差し指から小指までの4本で手皮の根本を握り、親指はそこから添えてギュッと握って持つ。どうしても重たくて不安な場合は手皮の輪に手を入れて持つ。子ども用にはグリップの付いたものもある。手首に負担をかけないよう注意が必要。</p>	
11	<p>ティンパニ (timpani / 伊)</p> 	<p>半球状の金属製の胴に皮を張った大型の太鼓。ネジを回したり、ペダルを踏んで音程を変えることができる。先がフェルト包れたマレット2本で叩いて音を鳴らす。サイズにより音域が異なるため、複数個を並べて演奏する。音程のある太鼓のため、演奏前にはチューニングが欠かせない。</p>	

No. 1, 2, 4, 6, 9, 10

所蔵：齊藤淳子

No. 5, 7, 8

所蔵：川口短期大学

撮影 ©2023, J. SAITO

No. 11

所蔵：北海道遠軽高等学校

撮影 ©2023, 高橋利明